

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実績に対する学校への内外からの期待は大きい。令和6年度も引き続き様々な取り組みを行う。</li> <li>・成果指標によっては、容易に結果が追いつかないものがあった。令和6年度は成果指標の見直しも含め検討を行う。</li> <li>・総合的な探究の時間の取り組みが高く評価できたが、時期を早めた分、2学期後半の生徒のモチベーションの維持に苦労した面もあった。令和6年度は、生成A I等の新たなツールの利用も検討したい。</li> <li>・広報活動は十分されていた。令和6年度は、HPのサイト導線を工夫したり、動画機能等を活用した新たな情報発信を模索していく。</li> <li>・標準服制度については、生徒との協議等を経て実施に至った。令和6年度は、生徒の自主性を生かしつつ、ヘルメットの着用やTPOに合わせた服装、SNSの利用等について、規律やマナーを考えて判断できるようにしていく。</li> </ul>
----------------------	---

<b>2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標</b>	<p>○旧制佐賀中学校以来の長い伝統を誇る高校として、科学・文化・社会の創造・発展を担い、将来の佐賀・日本・世界を支え、切り拓く多様な人材を育成する。</p> <p>○変化の激しい時代の中で、主体的に生き抜くための社会性や優れた知性、広い視野を獲得する教育を実践する。</p>
--------------------------------	--

<b>3 スクール・ポリシー</b>	<p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <p>○高校入学後も様々なことに意欲的にチャレンジする、次のような人求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高い志、リーダーとしての意欲、実行力を有する人</li> <li>2 学業に前向きで、一層の向上を目指して努力する人</li> <li>3 他者との様々ななかかわりの中で豊かな人間性を身に付けようとする人</li> <li>4 学校行事や部活動などを通して、社会性、忍耐力など身に付ける努力をする人</li> </ol>	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <p>＜教育課程編成及び実施に関する方針＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○次の方針により教育課程を編成します。</li> <li>・低学年に基礎科目を多く、高学年に選択科目を多く配課</li> <li>・2年次は文系・理系、3年次は文Ⅰ・文Ⅱ・理系の教育課程を設課</li> <li>・探究活動を継続的に進め、各学年に総合的な探究の時間を設課</li> <li>・社会性の発達にあわせて特別活動を持続的に実施</li> <li>○5つの力を身に付けていきます。</li> <li>・知識等を活用し、判断し、行動していくことで「主体的判断力」を身に付ける。</li> <li>・情報リテラシーを身に付け、探究のプロセスを繰り返すことで「課題発見力・解決力」を身に付ける。</li> <li>・自己を振り返り、他者や人としての在り方を学び、行動に生かすことで「自律力」を身に付ける。</li> <li>・協働的な活動や課外活動等での経験を基に「協働力」を身に付ける。</li> <li>・自己を振り返り、各教科や総合的な探究の時間に生かすことで「キャリア形成力」を身に付ける。</li> </ul>	<p><b>グラデュエーション・ポリシー</b></p> <p>○「質実剛健」「勤身養志」を校風とし、品位をもって逞しく生きていくために高い志と社会性を養います。</p> <p>○スクール・ミッションを実現するため、次の5つの力を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな知識や豊かな教養を基礎として、物事を多角的・多面的に吟味・検討し、主体的に判断することができる。(主体的判断力)</li> <li>・既習の事柄や、自ら収集・整理・分析した情報を活用して、問いを立て、課題解決に向けて思考・判断し行動することができる。(課題発見力・解決力)</li> <li>・自己を客観的に把握し、確かな人権意識に基づいて自らが立てた規範に従って行動することができる。(自律力)</li> <li>・他者を尊重し、対話を通じて協働して課題に取り組むことができる。(協働力)</li> <li>・社会の課題を知り、自己と社会との関わり方をデザインし、その実現に向けて行動することができる。(キャリア形成力)</li> </ul>	<p><b>4 本年度の重点目標</b></p> <p>【スローガン】 問い続ける</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) カリキュラム・ポリシーを着実に実施し、生徒が身に着けるべき力を保障する。</li> <li>(2) 生徒一人一人の適正・能力を最大限に生かした進路保障を実現する。</li> <li>(3) 唯一無二の誇り高さ信頼される学校づくりに努める。</li> <li>(4) 組織力向上と業務改善を推進する。</li> </ol>
--------------------	--	--	--	---

**5 重点取組内容・成果指標** 中間評価 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
重点取組				中間評価		最終評価				
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	◎★高い志を持ち、自らの夢や目標の実現に向けて主体的に努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎学習状況調査結果：授業満足度 ・予習・復習、課題への取組 85%以上 ◎★学校評価アンケート結果： ・自己実現への進路選択達成率 85%以上	「総合的な探究の時間」で、社会に目を向け自分の将来像を描かせる探究活動を中心としたキャリア教育を実施する ・ジェネリクススキルテストとキャリア・パスポートを有効活用する ・学年に応じた具体的な進路情報を提供、大学入試に関する理解を深める ・三者面談、保護者会等を通じて、進路指導に関する保護者の理解と協力を得る	B	・1学期末の学習状況調査結果：授業の準備と積極的な参加 79%(全年齢・全科目平均) もともと予習を課さない教科もあるため、数値としては問題ないものと捉えている。 ・3学年ともに保護者会を実施し、時機に応じた情報を提供することができた。特に1年生の保護者に対しては、例年と異なり、5月の後援会総会の折に、入学後一ヶ月というタイミングで保護者会が実施できた。また、10月には社会状況を踏まえた新課程入試や高大接続に関する大学教授の講演等を行い、文理選択の一助となる情報を提供した。	B	◎学習状況調査：予習・復習、課題への取組 79% ◎学校評価アンケート：自己実現への進路選択達成率 96.2% 「総合的な探究の時間」(2年ポスターセッション)については、体験入学の一環として美術館ホールにて「探究活動発表会」を実施でき、中学生を招くことが出来た。さらなる参加者増を目指して広報活動をしていく必要がある。 ・金沢大学より講師を招き、イノベーション論・主体的探究活動に関する講演会を実施することが出来た。この講演を機軸として、次年度9月のプレゼンバトルに向けた取組がスタートした。また、東京大学工学部長の講演では、生徒のみならず保護者にも参加を呼びかけたが、非常に好評であった。	A	・色々な取り組みがあり、良く工夫されて取り組まれておりA評価でよい。 ・昨年の学習状況と比べると下がっているが、生徒の自己評価は二年連続で上がっているの で良いのではないかと ・講演会の際に保護者にも呼びかけるなど積極的に取り組まれている。 ・社会も変わり、終身雇用でずっと同じ職場、同じ仕事ではなくなっている。昔ながらの職業選択の感覚ではない。	進路指導主任 各学年主任
	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教師の授業力向上と生徒の学習への主体的取組を確立	○学習状況調査結果：授業満足度 ・授業への評価 90%以上 ○学校評価アンケート結果： ・教師自身の授業力向上の取組の自己評価 80%以上 ・生徒の学習への主体的取組の自己評価 80%以上 ○進研模試全国偏差値： ・1,2年 65以上 ○日々の記録集計結果： ・各学年平均180分以上	・教科会議の充実(教科内での連携を図る)、シラバスの見直し、教授法研究、作問・評価方法の検討等を進める ・西高模試、2年実力テストの作問を通じた教科指導力の向上を図る ・各種研修会に積極的に参加する ・各学年で教科担当者連絡会を開き、生徒の現状を把握し連携して課題解決を図る ・ジェネリクススキルテストを有効活用して、クラス担任や教科担当による個人面談や個別相談体制を充実させ、きめ細やかな学習ガイダンスを行う	B	・1学期末の学習状況調査結果：授業を通じて学力向上ができたか 93%(全年齢・全科目平均) ・予備校等の研修会(対面)は積極的に参加している。オンラインでの研修会は、案内が来る度に関係教科に周知し、申込を促した。 ・模試結果を踏まえて教科担当者分析会を実施して、生徒の現状把握に努めた。 ・ジェネリクススキルテストの振り返りを行い、2年生については2回目の受験に向けて準備している。1年生も同様に振り返りを行い、個人面談・探究活動に活用している。 ・朝補習廃止後の学習時間の減少に歯止めがかかっていない。特に、低学年における習慣づけが急務である。	B	・学習状況調査結果：授業満足度 授業への評価93.6%(全科目平均) ・学校評価アンケート結果：教師自身の授業力向上の取り組みの自己評価98.2%/生徒の学習への主体的取組の自己評価95.2% ・先進校視察先(愛知、三重各県トップ校)を行い、教科内での共有を図り、職員会議で報告し指導に活かしている。 ・模試受験後、学年主導で教科担当者分析会を実施してもらったが、具体的な手立てに繋がっていない。じわじわと成績は下降気味である。 ・生徒の基本的な生活習慣と家庭生活における学習習慣が定着していない。朝HRやLHR、学年集会、全校集会等で粘り強く訴えていくしかない。学習時間の平均は、1年生157分、2年生171分、3年生241分。 ・2年2月に受験するジェネリクススキルテストの結果を早急に分析し、多様な入試形態への対応を的確に行っていく。	A	・評価指標の%はいずれも高く評価Aでいいのではないかと ・全国偏差値の目標設定65は高いのではないかと。少子化の影響で高校へ入学してくる層が変化している影響もあるのではないかと ・将来の就職から大学を選んでいると思うが、AIの進化や社会の構造が終身雇用では無くなってきているので、どう勉強をしたいのかを追究してもらいたい。	進路指導主任 各学年主任 各教科主任
	○ICT活用に関する職員のスキルアップと生徒の学習用PC活用率の向上	○学校評価アンケート結果： ・生徒の学習用PCの効果的な活用の調査(授業および授業以外(プレゼンテーションや部活動)で活用している生徒の割合80%以上) ○学習状況調査結果： 授業時のICT機器利用による授業理解度の向上について 80%以上	・ICTを活用した授業の実施 ・公開授業、研究授業の実施 ・ICT活用に係る各種研修会へ職員派遣 ・総合的な探究の時間、ホームルーム活動、学校行事、部活動等での学習用PCの利用 ・デジタル採点システムの活用	B	・電子黒板の利用率はどの教科でも非常に高い。授業における学習用PCの利用は、教科の特性によって差がある。 ・ICT活用に係る各種研修会へ職員派遣は適時実施している。 ・学習用PCの利用率は総括では高い。特にプレゼンテーション作成や調査等に利用されているため、生徒のIT活用能力を上げている。しかし、通信環境や教材のスペック等に不足を感じる場合がある。 ・デジタル採点システムの活用により、教科によって、採点時間が減少した。	A	・電子黒板は全教科で利用され、利用率も100%である。各授業で効果的に利用されている。 ・授業における学習用PCの利用は、教科によって差はあるが、「総合的な探究の時間」等の調べ学習やプレゼンテーション作成などに活用し、生徒のプレゼンテーション能力も向上した。 ・デジタル採点システムの活用により、採点時間が減少するとともに、調査だけでなく模擬試験、小テストにも利用でき、生徒の習熟度を測ることが容易になり、各教科で利用されている。	A	・すでにPCを使うのは当たり前で、学力向上を考えると、時間当たりの回答数をチェックするなど活用の仕方でも評価すると良いのでは。 ・このアンケートの項目そのものを無くしても良いのでは、ICTを使うのは当たり前で、課題探究活動にICTを使っているかなどに変えてはどうか。	教育情報化推進リーダー 教務主任 (各教科主任) (各活動顧問)
●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	◎生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○標準服制度の生徒満足度80%以上 ○生徒指導措置数：0件 ○部活動加入率：80%以上 ○学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動等への積極的な参加を促進 ・栄城令和宣言SNS五箇条の遵守 ・情報モラル講演会等、具体例を交えて指導を行う	・全職員で共通認識を持ち、TPOに応じた服装を指導する ・登校指導等で、挨拶、身だしなみ等の指導を行う ・学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動等への積極的な参加を促進 ・栄城令和宣言SNS五箇条の遵守 ・情報モラル講演会等、具体例を交えて指導を行う	A	・令和6年4月から、本校で標準服制度が導入された。色々細かな問題点も出てきているため、今後も指導を継続していく必要がある。現在は比較的落ち着いた服装選択をしていると感じている。 ・部活動加入率は101.3%であった。一人で複数の部活動に加入している生徒が複数いるため、この数字になっていると考えられる。 ・本校で、令和6年度1学期に、いじめ重大事案が発生した。管理職を中心に、迅速・丁寧に対応した。	A	・本校では、令和6年度から標準服制度を導入した。それにより登校日の90%以上で私服登校が可能になった。現状として、落ち着いた服装選択をしていると感じている。生徒アンケートでは、1日でも私服登校をしたことがある生徒は80.8%であった。 ・他を思いやる心・豊かな心の教育については、毎朝の校門挨拶指導や全校集会時のSNS利用講話等で育むよう働きかけた。 ・特別指導を必要とする生徒指導問題 1件 ・学校行事、部活動、生徒会活動等に主体的に参加した 95.5% ・生徒の交通ルールの順守への自己評価 93.2% ・挨拶、時間厳守等の基本的な生活習慣が身に付いたと感じた生徒 85.7%	A	・現行の方針で十分であると思う。 ・学校評価アンケートの結果も良好である。 ・部活動加入率がとても高く活発であると感じる。 ・生徒が主体となった活動をもっと紹介していいのではないかと。	生徒指導主任 各学年主任 生徒会担当 (各活動顧問)
●心の教育	◎いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ重大事案件数：0件 ○個人または三者面談：年6回 ○学校評価アンケート結果： ・いじめの早期発見と対応への評価 90%以上	・年3回いじめに関するアンケート調査を実施 ・クラス担任、教科担任や部活動顧問、養護教諭等から広く情報を収集 ・寛知後の速やかな対策委員会開催、関係職員間での情報共有により組織的に対応し、被害生徒のケアと保護者への説明を適切に実施	A	・1回はいじめに関するアンケートを実施 ・2回目を実施中 ・3回の個人面談(1回の三者面談)を実施 ※いじめ事案認知件数10件(一学期末現在)	A	・いじめ重大事案件数：0件 ・年3回はいじめに関するアンケート調査を実施した。 ・個人面談は年6回実施し、校内いじめ体罰等対策委員会は定例で3回、その他12回実施。 ・いじめの早期発見と対応への評価 98.5% (全体の26.3%の不明を除外) ※いじめ事案認知件数 23件(2月末現在)	A	・今の時代も件数があるのではと思う。 ・件数が増えることは早期発見につながるのではないかと。 ・多感な時期であり注意が必要。 ・SNSはクローズは空間なので見えてこない。	主幹教諭 各学年主任 生徒指導主任 教育相談担当

	○環境美化への主体的な取組	○学校評価アンケート結果: ・掃除、ごみ持ち帰りへの取組 90%以上	・生徒保健委員によるゴミのチェック、呼びかけ ・生徒主体型の環境美化に関するホームルーム活動	A	・生徒保健委員によるゴミ分別の推進は良好。 ・各自ゴミ持ち帰りの意識が高揚した。 ・環境美化に関するホームルームは2年生は6月に実施済み。1、3年生は12月上旬に実施予定。	A	・環境美化、ゴミの持ち帰りなどへの意識が高く、教室のごみ箱の最小化や回収日を減らすなどの意見もみられた。 ・生徒保健委員によるゴミチェックなど生徒自らが率先して環境美化に取り組んだ。 ・ゴミの持ち帰りへの主体的取り組みは本年度92.6%であった。	A	・良く取り組んでいる。 ・現行の維持でいいと思う。	保健主事
	○自発的な読書習慣の確立 ○社会や世界への広い視野を養う活動の推進	○生徒一人当たりの貸出冊数:年5冊以上 ○図書に関する情報を載せた「遠心」(図書館だより)を随時発行する ○社会事象等に関するインフォメーションペーパーを随時発行する	・読書に関するアンケートを実施し、生徒の実態を把握する ・推薦図書等を「遠心」(図書館だより)で紹介する ・社会事象等に関するインフォメーションペーパーを随時発行する ・掲示物やレイアウトを工夫し、図書閲覧室を使いやすく整備する	B	・生徒の読書への意識を高めるため、図書館だより「遠心」を定期的に発行し、新着本や推薦図書を紹介している。 ・生徒の現代社会についての視点を増やそうと考えて、インフォメーションペーパーを発行している。 ・9月までの一人当たりの貸出冊数は2.25冊である。	B	・図書便り「遠心」の発行は、新着図書や先生方の推薦図書等の紹介を記事として、だいたい月に1度のペースで発行することができた。ただし、生徒の自発的な読書習慣に対する回答は「そう思う」「ややそう思う」を合わせて52.3%であった。 ・インフォメーションペーパーを発行することで社会についての情報を提供できた。 ・読書アンケートは実施できていない。 ・一人当たりの貸出冊数は3.6冊であった。	B	・自発的な読書習慣については、数年来70%は達成できていないので、目標値を再検討した方がよい。 ・社会事象等に関するインフォメーションペーパーは良い取り組みであると思う。	学校図書館主任
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ●交通事故の加害者・被害者どちらにもならないために、体験型自転車交通安全教室を行う。 ●山や海での生活事故を0にする。	・生徒指導部を中心に登校指導を行う ・生徒会の生徒宣言で交通マナーに関わる内容に触れるようになった。今後も継続したい。 ・体験型自転車交通安全教室(スクエアストレイト方式)を行い、自転車の交通事故を抑制する。 ・山や海での事故は命にかかわることを認識させ、重大事故を未然防止する。	B	・毎朝、生徒指導主事・副主事で、校門指導を行った。朝の挨拶指導も行っているが、少しずつ大きな声で挨拶が返ってくるようになった。今後も継続したい。 ・今年度前期の本校生徒自転車事故は、例年並みで9件である。本校正門を自転車車で左折する際に、続けて2件の自転車事故が発生した。自転車運転マナーの指導及び見通しが悪くなる原因である植木の刈込みを行った。	B	・年度初めから交通の要所を掲示物で示し、集会等で交通ルール遵守について注意喚起した。 ・12月に佐賀南警察署交通課職員による交通安全教室を実施した。実際の自転車事故の映像を視聴しながら、ヘルメット着用の重要性や交通ルール遵守の必要性を話していただいた。 ・令和5年4月から自転車乗車中のヘルメット着用が努力義務になったため、集会等でヘルメット着用を推奨した。生徒アンケートによる本校のヘルメット着用率は5.1%である(11月時点)。 ・交通事故件数は昨年比微減の13件(1月24日現在)である。殆どが軽微な事故であるが、重大事故が1件発生した。	B	・スクエアストレイト方式の指導は前向きに検討してもらいたい。 ・ヘルメットについても引き続き指導した方がよい。 ・正門前の見通しについては協力できるかもしれない。 ・交通指導は大変良くして頂いている。	生徒指導主事
	○疾病予防、主に感染症の共学・共育・共生	○重度の熱中症防止 ○感染症との共生を認識する ○保健だよりでの感染症予防啓発:年5回 ○学校評価アンケート結果: ・校内の感染症予防への評価 90%以上	・危険がある時期は、暑さ指数を職員室横廊下、および教室等廊下に掲示し予防を啓発 ・気候や体調に応じて、休憩や水分補給を積極的に行うよう示唆 ・個人でも感染症に関する情報を察知 ・保健室利用状況及び感染症情報収集システム等を活用で、早期に感染症流行状況を検知し、保健だよりを通して発信 ・生徒主体型による感染予防喚起のホームルーム活動	A	・WGBT等の活用とともに、授業間における水分補給や休憩、換気など十分にできた。 ・各自での熱中症対策を呼びかけた。夏季休業中及び学校祭期間にも熱中症等の症状は多くはなかった。 ・1学期にコロナ感染での学年、学級閉鎖が行われたが、それ以降は主だった感染はあまりなかった。	A	・年間を通して何らかの感染症が流行していたため、数回学級閉鎖の措置を講じた事もあった。しかし、定期的な予防対策として保健だより、流行の可能性が上がったタイミングには、職員・生徒それぞれの目標表で再度予防対策の強化を呼びかけ、学校内での感染拡大を防いだ。 ・十分に感染予防の知識はある生徒たちなので、更に主体的に行動できるよう、今年度も保健に関するHR活動を実施した。	A	・全国的な感染の中、適切な対応をされている。 ・共通テストも無事受験できて良かった。 ・良く取り組まれていると思う。	保健主事 (保健体育科主任) (各部活動顧問)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、部活動休業日、学校閉庁日の設定と実質的な運用 ・出退勤システムによる職員の時間外在校等時間の把握と長時間勤務削減の呼びかけ ・年次休暇等の休暇取得の勧奨 ・ICTを活用した業務改善と効率化	B	・夏休5日を取得しやすいよう週休日・祝日を除いた学校閉庁日を7日設定した。 ・定時退勤や休暇取得の推進のため、考査期間中の会議や研修を極力削減した。 ・欠席連絡や諸調査、各種アンケート等に加え、今年度からデジタル採点システムを導入することにより、ICT活用は業務の効率化につながっている。	B	・2月末時点で、時間外在校等時間の月平均が38時間41分と昨年度と比較して若干増加した。しかし、学校評価アンケートでは、定時退勤推進日等の設定、積極的な休暇取得の奨励などによって長時間労働の縮減・解消に対する意識が高まったと回答した職員が44.1%と昨年度より8.3%増加した。 ・ICTの活用による業務改善については、欠席連絡や調査等に加え、年度途中から導入したデジタル採点システムについても定着している。	A	・月100時間超の勤務の3名、ケガが大事だと思う。 ・国民スポーツ大会やインターハイ等大変だったと思う。お互いに仕事をシェアするようにしてもらいたい。	副校長
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○シニアシートでの情報共有:各学期に2回以上	・特別支援教育に関する職員研修の実施 ・個別のケース会議を開催し、関係者間での情報共有を図る	B	・一学期に職員研修を実施した。 ・毎月シニアシートを活用した会議を実施し、情報共有を図り、生徒対応を行っている。	B	・学校評価アンケートでは、不登校生徒や悩みを抱えた生徒に対しての適切な対応が図られたと回答した職員が94.2%であった。毎月のシニアシート会議を通して職員間の情報共有を図ることができた。	B	・不登校は気になる。学校の問題と言うより、社会の問題だと思う。企業が効率を重視し結果ばかりを追及しているが、違うように思う。一見無駄な取り組みも必要では、不登校になる人が少なくなるようにしてもらいたい。	特別支援教育コーディネーター 保健主事

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★探究活動の推進	★新・理想の星プロジェクトの実践	★活動を通して、自らの思考が深まった88%以上 ★他者と協働しながら主体的に活動できた88%以上 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒80%以上 教職員86%以上	・主体的な探究活動を推進し、他者と協働しながらポスターセッションに向けて準備させる ・フィールドワークを推奨し、研究に深まりをもたせる ・中学生を含めた多数の聴衆の前で発表する機会をもたせる	B	・金沢大学より講師を招き、イノベーションや主体的な探究活動についての講演をしていただき、生徒の意欲は少しはかまっている感じがしている。 ・2年生のポスターセッション及び探究活動発表会は無事に終了した。優秀な作品を、3月実施の京都大学ポスターセッションへ出品する。	A	・2年生はフィールドワークを踏まえた研究成果としてポスターセッションを7月に行い、その優秀作については、8月の探究活動発表会でプレゼンを行った。1年生は2年1学期のポスターセッションに向けてフィールドワーク等の準備を進めている。そのうち、次年度9月実施予定の「カーボンニュートラル」をテーマとしたプレゼンバトルに向けて主体的に活動しているチームがある。 ・探究活動を通して、自らの思考が深まった 96.1% ・探究活動を通して、他者と協働できた 98.1% →両項目ともに非常に高い数値となった。 ・自分の学校を中学生に勧めることができる 生徒92.9% 教職員85.7%	A	・他県の高校との3校でのプレゼンバトルはとても良い取り組みと思う。 ・高校生同士が競う刺激はあうのは同じ土俵(レベル)で行った方がよい。七高連で出来たらよいが。 ・企業と高校生がアイデアを共有し、商品開発やビジネスプランを作成する取り組みもあっている。	進路指導主事 (各学年主任)
○個別支援が必要な生徒への対応	○個々の生徒の状況に即した教育相談	○今年度新規の不登校による長欠生徒数を前年比5割以下にする	・組織的な情報共有と連携による対象生徒の早期発見、早期対応 ・SC、SSWや外部機関等との連携 ・適切な対応力醸成のための職員研修の充実	B	・各担任と保健指導部と情報共有を図り、連携して対象生徒への早期対応ができています。 ・SCや外部機関との連携も良好である。 ・特別支援教育に関する職員研修も実施できた。	B	・2学期以降に教室に入ることが困難な生徒が増えた。別室等の物質的な資源も人的資源も不足する中で、学年や保健室等の対応により欠席の長期化を何とか免れているケースもある。 ・SCと密に連携を図ったり、医療機関や専門機関とケース会議を実施したりして、個別対応を積極的に行なった。	A	・新たな会議で十分取り組まれている。 ・生徒の取組への職員間の共通理解も出てきているようだ。 ・不登校になる生徒については気になる。何かを緩めて登校できるようにならないか。	教育相談担当 (保健主事)
○広報活動	○保護者、地域への積極的な魅力ある情報発信	○学校評価アンケート結果: ・本校の情報発信の取組への評価 80%以上	・西高だよりや学校HP、スクールNEWSを活用した、学校行事や進路情報、部活動成績などの情報を随時提供 ・西高だよりの年7回の発行と内容の充実 ・学校HPのサイト導線の工夫や、動画機能等の活用など新たな情報発信を模索 ・保護者へのスクールNEWS登録の推奨 ・学校案内パンフレットの内容の充実	B	・学校HP等を通じて、内外に向けて学校の情報を随時提供している。学校の様子が伝わるように個人情報に留意しつつ写真も多数掲載している。 ・西高だよりは現在4回発行している。 ・学校HPのサイト導線の工夫は検討中である。 ・学校案内パンフレットは卒業生の対談を入れるなどして内容をより充実させた。	A	・学校HPIは、学校の様子がわかるように各種行事の様子を積極的に配信した。 ・西高だよりは年間8回発行予定。今年度は弁論の九州大会原稿も掲載した。 ・学校HPのサイト導線の工夫はまだ検討中。 ・SNSの活用についても検討したが、研修会の講師から目的や必要性を熟慮した方がよいという助言をいただいた。今後の課題。 ・学校案内パンフレットは概ね好評だった。	A	・十分な情報発信ができていいと思う。動画での配信に取り組んでもらいたい。 ・西高だよりの発行回数や、HPの更新回数をみると良く取り組まれていると思う。	広報研修主任

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	<p>・進路実績に対する学校への内外からの期待は大きく、次年度も引き続き様々な取り組みを行う。</p> <p>・成果指標を達成できているものが多い。一部、達成困難なものがあるので、次年度は取り組み目標の変更も含めて成果指標の見直しを行いたい。</p> <p>・今年度も総合的な探究の時間の取り組みは高く評価できた。次年度は、新たな取り組みとして他校とのプレゼンバトルもあり、探究活動の機運を高めていく。</p> <p>・標準服制度が開始され生徒の自主性を生かす取り組みが進められている。次年度も規律やマナーを考えて判断する様に促していく。また、ヘルメットの利用率向上に向けて交通安全の意識を高めていく。</p> <p>・学校の魅力を高める上で学校評議員会では、特色選抜の利用等の意見も出た。次年度は、創立150周年記念行事や教育課程の検討等で学校の魅力を高めていく。</p>
----------------	---